

聖隷国際教育学会 第4回年次大会報告

大会テーマ：こどもの主体性を育む保育環境 / 2026年7月4日（土） / 会場：聖隷クリストファー大学3号館

2026年7月4日（土）、聖隷クリストファー大学を会場に、第4回聖隷国際教育学会年次大会を開催いたしました。本大会には保育・教育関係者、本学教職員、学生、卒業生など総勢80名を超える皆様にご来場いただき、大変盛況のうちに閉会することができました。ご来場・ご協力くださいましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

1. 午前の部 基調講演・対談・フロア対話

午前の部では、アトリエリスタ・こども環境デザイナーの伊藤史子氏をお迎えし、「探究的な保育環境—レッジョ・エミリアから学ぶこと—」と題した基調講演をいただきました。子どもの感性は無限大であり、その可能性を引き出すために保育者がどのようにアプローチしていけばよいのか、深く考えさせられる素晴らしいご講演でした。目の前の素材とじっくり向き合うこと、大人と子どもがともに探究し、ともに驚く関係のあり方など、多くの参加者の心に残る内容となりました。

講演後は、本学の鈴木光男教授、杉山沙旺美助教も登壇し、伊藤氏との対話形式のシンポジウムを実施。フロアとの対話も交え、大会テーマである「探究的な保育環境」について、参加者とともに理解を深める貴重な時間となりました。



基調講演の様子（伊藤史子氏）



対談の様子（伊藤史子氏・鈴木光男教授・杉山沙旺美助教）



フロア対話・意見交換の様子

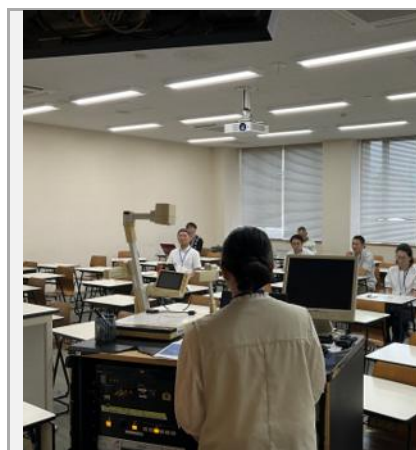
2. 総会

午後の部の開始にあたり、総会を開催し、学会活動報告および会計報告を行いました。ご参加いただいた会員の皆様の満場一致にて、各報告をご承認いただきました。あわせて、次年度から研究発表・投稿論文に関する執筆要綱が一部修正されることをご報告いたしました。論文等をご投稿される会員の皆様におかれましては、お手数をおかけいたしますが、新しい執筆要綱・フォーマットをご確認のうえご投稿いただけますようお願い申し上げます。

3. 午後の部 研究発表・実践報告

午後は2つの分科会に分かれ、計8件の研究発表・実践報告が行われました。発表者それぞれの日頃の実践や研究の視点を基盤とした大変貴重な内容で、フロアを交えた質疑応答・全体討議も活発に行われました。分科会Bでは、全体討議に続き、杉山沙旺美助教によるレジャ・エミリア視察報告と、午前の部を踏まえた参加者との対話の時間も設けられました。ご発表いただいた皆様、ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

分科会	発表者	所属	発表題目
A-1	今坂 仁美	公立小学校	学級活動でつくる「全校お化け屋敷」
A-2	竹本 石樹 小川 博士 熊野 善介	聖隷クリストファー大学 他	STEAM 教育を支える PLC 構築の障壁：学校現場と教育行政への質的インタビュー調査から
A-3	飯田 真也	聖隷クリストファー大学	九九の幾何学：九九から量子力学「電子軌道」へ
A-4	牧野 亮平	地域課題リサーチャー／ 発達心理ラボ主宰	不登校経験の意味づけをめぐるナラティブの探索的分析—SNS 上の「不登校はギフト」言説に着目した教育社会学的考察—
A-5	山口 権治	第一学院高校浜松キャンパス	いじめ未然防止を目指したピアメディエーション（対立解消スキル）—いじめ傍観者を仲裁者に—
B-1	Teacher Marie 中川 彩加	株式会社クリエイティブ エンパワーメント	レジャ・エミリアアプローチに基づく創造性教育の実践と可能性
B-2	原 崇智	日本プロテニスエンタープライズ株式会社	制作活動を中心としたワークショップにおける自己表現と場づくりの検討—郷土玩具づくり・牛乳パックランタンづくり実践を通して—
B-3	渡邊 拓真 杉山 沙旺美	聖隷クリストファー大学	領域「環境」における栽培環境づくりに対する学生の意味づけ—茶箱の再利用による実践を通して—



分科会 A の発表の様子



分科会 B の発表の様子



レジャ・エミリア視察報告

4. 交流会

研究発表終了後には、卒業生も会場に加わり、研究発表者・卒業生を交えた交流会を開催しました。世代や立場を超えて活発な意見交換が行われ、大変盛況のうちに閉会いたしました。学生・卒業生・若手教員が一丸となって学会を盛り上げる姿に、多くの参加者から温かい感想が寄せられました。



交流会の様子①



交流会の様子②

5. アンケート結果

大会終了後、ご参加の皆様にはアンケートを実施し、38件のご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。以下、結果の概要をご報告いたします。

① 満足度

区分	とても満足	満足	どちらともいえない／ 不満	回答者数
午前の部 (n=33)	19名 (59.4%)	13名 (40.6%)	0名	32名 (未回答1名)
午後の部 (n=17)	8名 (47.1%)	8名 (47.1%)	1名 (5.9%)	17名

午前・午後ともに「満足」以上の回答が9割を超え、大変高い満足度が得られました。特に午前の基調講演では「とても満足」が約6割を占め、伊藤史子氏によるレッジョ・エミリアに関するご講演と対談形式の構成が、参加者の学びと気づきに強く結びついたことがうかがえます。午後の研究発表・実践報告についても「満足」以上が94%に達し、各発表の実践的な内容と活発な討議が高く評価されました。

② 印象に残ったこと・ご感想（抜粋）

基調講演については、「目の前のものと向き合うことの大切さに気づかされた」「素材そのものを手で触れ、よく見ることの重要性を学んだ」「教師は子どもと同じ目線に立ち、ともに発見し、ともに考える存在である、という言葉に深く共感した」など、日々の保育・教育実践を見つめ直す機会になったという声が多数寄せられました。また、対談・フロア対話形式について「参加者に沿った内容となり学びが深まった」との評価

もいただきました。研究発表・実践報告についても、「分科会に参加し学びが多かった」「実践的な視点を知ることができた」「いじめ未然防止のピアメディエーションの取組みが印象的だった」といった感想が寄せられ、交流会では「様々な立場・世代の方と意見交換ができてよかった」との声もいただきました。

③ 今後取り上げてほしいテーマ・講師（抜粋）

インクルーシブ保育、モンテッソーリ教育、食育、心理的安全性の高い学級づくり、人間観・世界観からつながる保育・教育実践、伊藤史子氏によるドキュメンテーションに関する続編、海外の教育実践の紹介、大学や社会の教育の実情を知る講座など、多岐にわたるご要望をいただきました。また、招聘講師として河邊貴子先生、汐見稔幸先生、稲葉俊朗先生のお名前も挙げられ、今後の企画の参考とさせていただきます。

④ 大会運営へのご意見・ご要望（抜粋）

「皆さん笑顔で親切に対応していただき安心して参加できた」「準備・運営・片付けまできめ細やかに行っていただき感謝している」など、運営に対して温かいお言葉を多数いただきました。また、「このような発表会をもっと増やしてほしい」「学生と直接意見交換できる場も設けてほしい」といった、今後の企画への具体的なご要望もいただいております。いただいたご意見は、次回大会の運営・企画改善に活用させていただきます。

6. 今後に向けて

2026 年度学会紀要の投稿スケジュールは、以下のとおりです。

- エントリー期間：2026 年 10 月 5 日～11 月 30 日
※ エントリー方法等の詳細は、メールにてご案内いたします。
- 原稿提出締切：2027 年 1 月 4 日
- 学会紀要発行：2027 年 3 月 31 日

なお、研究発表・論文投稿に関する執筆要綱および投稿フォーマットを一部改訂しております。ご投稿を予定されている方は、新しい執筆要綱・投稿フォーマットをご確認のうえ、ご準備くださいますようお願いいたします。

また、本学会では大会運営にご協力いただける実行委員を随時募集しております。ご興味・ご関心のある方は、下記までお気軽にご連絡ください。

連絡先：聖隷国際教育学会 二宮 takayuki-n@seirei.ac.jp

第 4 回聖隷国際教育学会年次大会は、多くの皆様のお力添えにより、大変充実した内容で開催することができました。改めて、ご来場くださいました保育・教育関係者の皆様、ご発表いただいた皆様、準備・運営にご尽力いただいた皆様、その他多くの方々に心より感謝申し上げます。次回大会でも、皆様にお会いできますことを楽しみにしております。聖隷国際教育学会 会長 二宮貴之